

第2回FD研修会を開催

—初めての試みの公開授業—

を対象に「メタボになんかなるものか!」の講義が、パワーポイントを使用して行われた。



パワーポイントを使用して講義する石山育朗教授

は、国文学科の七三五番教室で、第二会場の七三五番教室で

1月19日、第二回FD研修会が開催され、公開授業が行われた。まず午後2時45分から3時30分までの45分間、二会場に分かれて授業が行われた。その後、午後5時まで参観した

による講座「創作文芸入門(児童文学・絵本)」の授業が、国文学科の学生とともに行われた。ライトノベルを素材に文章の書き方や、ものの見方を講義した。公開授業は、授業改善の工夫を教員同士が共有することを目的とするが、本学では初めての試みであった。教員は日頃学生に講義科目を教授することを通じて、さまざまな知識・情報、見方や価値観などを学生に伝えようと日々努力している。



ライトノベルを素材に講義する大山尚准教授

が、各自啓発される場所が多かったと思われる。後日行われたFD委員会の反省会では、授業時間が45分と変則的であったため、日常的な授業の展開ができなかったのではないかと。また学期全体の講義計画中、今回の授業がどのような位置付けになるのか。意見交換会の討論の進め方が難しいという意見や、意図を言うにも遠慮や戸惑いがあるなど、今後、改善していくべき点が指摘された。初めての公開授業でもあり、いくつかの課題は残ったものの、教職員にとって有益であったことは疑いない。

入試問題説明会

教育センターにおいて開催

1月22日、本学園教育センターにおいて、「入試問題説明会」をはじめ開催した。本会を企画した学務推進委員会では、中村幸弘学長の諮問にこたえて学生募集の推進について審議するとともに、センター型入試にあわせた、A・B方式(筆記試験)の説明会を検討した。



受験生からの相談を受ける担当教員

本会の趣旨は、本学を受験する受験生に対し、今後の入試制度の正確な情報を伝達すること。また、特に筆記試験について、直前の入試問題説明会を実施し、設問の意図と

その傾向を説明しながら、教育的配慮のもと適正な対策と学習方法を通知するところにある。そこで、まずは本学ホームページ上に実施要項を掲載し、あわせて県内および周辺の高校へは案内状を送付して、広報につとめた。

当日は、入試委員長・広報委員長・教育学部に依頼し、午前11時から午後1時まで二つのブースを設けて説明会と相談会を行った。その後、午後1時から2時まで「国語(千明守教授)、同10分から3時10分まで「英語(山本博子教授)、同20分から4時20分まで「日本史(鍛代敏雄教授)」と、各科目ごとに入試問題解説の授業が行われた。今回はじめての試みであり、参加者数は予想できなかったが、生徒9名・父母9名で、神奈川県からの参加もみられた。次年度にむけては、実施時期を考慮した上で、再検討したいと考えている。